

自然体験活動指導者養成研修 [第2回] 報告

国立赤城青少年交流の家では、10月31日(土)～11月3日(火)の3泊4日の日程で、文部科学省委託事業「自然体験活動指導者養成研修」[第2回]を開催しました。

この事業は、小学校の1週間の体験活動の全体指導者を養成を目的として実施し、関東近県から15名の参加がありました。

1日目 「学校教育における体験活動の意義」「教育課程と体験活動の関連性」

東京学芸大学準教授 林 尚示 先生



体験活動とは何か、体験活動と長期自然体験活動の意義と必要性等について講義があった。途中グループ討議を入れながら、進み、教育課程に体験活動を取り入れる方法や留意点について学び、小学校教育について理解を深めた。

「自然体験活動の技術～ナイトプログラム編～」

群馬県キャンプ協会理事長 小野里 清治 先生



夜は屋外で月を眺めながら地面に寝転がり、プチソロ活動を体験した。その後、暗闇の中でできるゲームを行った。場所を選ばずに簡単にできるゲームの紹介があり、視界が効かないところにおもしろさがあった。

2日目 「自然体験活動の技術～野外プログラム編～」

群馬県キャンプ協会理事長 小野里 清治 先生



汎用性の高い基本的なロープワーク、簡易測定法、シルバーコンパスを使ったゲーム、野外炊事を行った。ロープワークや火起こし体験では、苦勞をする姿が見られたが、児童の体験を豊かにする、実践的な内容を学ぶことができた。

「体験活動の指導法」

群馬県キャンプ協会理事長 小野里 清治 先生



長期の宿泊体験活動を実施する際の、生活リズムを整えることや、子どもの動きを把握すること、危険な生き物など、大切な情報を得ることができた。また、アイスブレイクやレクリエーションの実習を取り入れ、人間関係作りのステップを体験した。

3日目 「安全管理・救急救命法」

日本赤十字社群馬県支部派遣講師 羽鳥 勉 先生



自然体験活動の怪我を想定して、三角巾を使った応急処置を中心に、AEDの使用法や心肺蘇生法の研修を行った。参加者は、事故への対応をイメージして緊張感を持って参加し、「大切な知識なのでもっと時間がほしい」という声が聞かれた。

「安全管理・リスクマネジメント」

国立赤城青少年交流の家企画指導専門職 鈴木 圭一



前半は、リスクの洗い出しや下見の大切さ、緊急連絡体制や事故対応についての講義を行った。後半はRMEを行い、事故対応や事故回避の方策について、グループで討議をし、リスクへの対応の方法を体験的に学んだ。

「プログラムの企画立案1」「プログラムの企画立案2」

CCC自然・文化創造工場関東事業部専務理事 劔持 雅信 先生



ねらいを明確にすることや、流れを大切にすることなど、企画を立てるときの視点を学んだ。それぞれの思いを各自が案にまとめた後、グループでプログラム案を作成した。作業は予定時間を超して、熱心に行われた。

4日目 「プログラムの企画立案3」

CCC自然・文化創造工場関東事業部専務理事 劔持 雅信 先生



グループワークの後、多様なアイデアが随所に見られ、本研修で学んだことも生かされたプログラムが発表された。質疑、フィードバックタイム、講師の評価を行った。講師からは、「プログラムはストーリー」という指導をもらった。

絆



参加者の皆さんの旺盛な研修意欲に支えられ、実りある研修にすることができました。講師の先生方からは、豊富な経験からくる、自然体験活動の勘所や魅力をたくさん教えていただきました。参加者からは、「講師の先生方が本気で本物を教えてくれたので、忘れることはない。」「様々な年齢や業種の人と関われ、熱く語り合えてよかった。」「自分たちで作ったプログラムを体験して、さらに深めたい。」「もっと研修の機会を増やしてほしい。」等の、前向きな声をいただきました。同じ志を持つ皆さんと、今後も情報交換や、交流を図っていければ、なんとすばらしいことでしょう。講師の先生方、参加者の皆さん、本当にありがとうございました。

連れ出そう！自然のど真ん中へ